



■カンボジアの孤児院の子どもたちと村田氏



■笑顔が眩しい孤児院の子どもたち



■「女性のために変化をもたらす賞」受賞トロフィー

むらた さ や か

村田 早耶香 Sayaka Murata

特定非営利活動法人かものほしプロジェクト 共同代表
President, Kamonohashi Project

1981年東京都生まれ。2001年、大学2年の時に東南アジアを訪問した際、児童買春の現実に直面し、仲間と共に「かものほしプロジェクト」を設立。2005年日経WOMAN主催「Woman of the year 2006」リーダーシップ部門を最年少で受賞したのを皮切りに、「女性のために変化をもたらす賞」など多数の賞を受賞。

推薦者 小山内 美江子 JHP・学校をつくる会 代表理事



村田早耶香氏は、特定非営利活動法人かものほしプロジェクトの共同代表を務め、「世界の強制的な児童買春問題」の解決のために尽力している、注目の若手社会起業家である。

ふつうの女子大生だった村田氏が児童買春問題に取り組む原点は、大学2年の時にスタディーツアーで訪れた東南アジアで、児童買春によりエイズに感染した母子との出会いにある。5歳の少女の家は貧しく、売春宿に売られたために母子共に感染し、人生を奪われるという現実を激しい怒りを感じ、「あの子たちを守りたい」、「同じ自分の一生なら、児童買春という問題を解決することで使いたい」と思うに至った。2002年に「かものほしプロジェクト」を設立、2004年に特定非営利活動法人として認証され、日本とカンボジアを拠点に活動を行っている。

児童買春問題の解決のためかものほしプロジェクトは被害者(売られる側)と加害

者(買う側)の両方にアプローチを行っている。被害者は貧しさのために身体を売らざるを得ない状況にあり、加害者には簡単に人を買ってしまう環境があるためだ。子どもを売らせないための対策として

「コミュニティアクトリ事業」と「孤児院支援事業」がある。前者はい草などを原料とした、ソディクラフト製品の制作等の職業訓練と雇用を提供。親が定の収入を得ることで、買春の被害から子どもたちを守っている。また、後者は人身売買の被害に遭った子どもたちや、被害に遭った可能性の高いストリートチルドレンが保護されている孤児院を支援し、被害を未然に防ぐことに役立てられている。

また、子どもを買わせないための対策として現地警察とユニセフなどの国際機関が行う警察訓練を支援している。資金面だけでなく警察官へのトレーニングも行う。犯罪を未然に防ぎ、また犯罪が起きる間に対処できるよう働きかけている。

この取り組みにより、児童買春の摘発件数は少しずつ増加している。

かものほしプロジェクトの活動で特筆すべきは、従来型の寄付に大きく依存する非政府組織から脱却して、自らの事業(Webサイト制作などのIT事業)からの収益を主要な資金源として、安定した活動を継続している点である。また、支援の基本理念は「魚をあげるのではなく、魚の釣り方を教える」。つまり寄付を待つのではなく、最終的に自立することを目的としている。

事業が着実に成果を出している一方で、コミュニティアクトリの黒字化や、見えにくい場所で行われる児童買春への対応など、解決すべき課題も存在する。これまで様々な困難に直面しながらも、あきらめなかつた村田氏の輝く強い意志は、称賛に値するものである。若い世代に対し、社会起業家という新しい生き方を自らの行動を模範として示した氏の更なるリーダーシップの発揮が期待されている。

「あきらめなければ夢に近づく」
確固たる信念が問題解決の扉を開く